

兄的性格・弟的性格と双生児における 兄弟的取扱いについて

教育心理学研究室

三木 安正・天羽 幸子

研究の目的

一卵性双生児の対偶間には、多くの点で高い類似性が見られるのであるが、性格の面では、両者の間にしばしば差異があるとされている。すでに、諏訪・岡田両氏^{註1}は1942年及び1943年の双生児合宿研究において、そのことを観察・記述している。そこには一卵性双生児（以下EZと略記する）11組と二卵性双生児（以下ZZと略記する）8組について、観察された性格の一致点と不一致点が性格をあらわす言葉で羅列的に示されているが、ZZの対偶者間には殆んどとり出せるような傾向がないのに対し、EZの対偶者間には可なり方向性のある差異がみられる。そのEZの対偶者間にみられる性格の不一致点をすべてあつめて、兄の方にみられる特徴と弟の方にみられる特徴とに分け、似たようなものを集めてみると、以下のようになる。（カッコ内の数は何回か出てきた場合の回数）

兄

自制的（4）、控え目（3）、慎重、遠慮がち、多小気重、決断がおそい、落着がある、はにかみ（2）、責任感強し、指導的（2）、努力的（2）、積極

本研究は昭和28年度文部省科学研究費「双生児研究班」による研究の一部である。なおこの研究における卵性の診断は双生児研究班の班員諸氏によって多くの項目について精密に行われたものによる。

なお本研究は「兄的性格と弟的性格」および「双生児にみられる兄弟の性格差異と家庭での取扱い方」として教育心理学研究第2巻第2号及び第3号に発表した。

註1 諏訪望、岡田敬蔵「性格学と双生児研究」医学の進歩6（昭和24年）

的、決断的、

社交的、協調的、気軽、率直、思いやり、明朗、活潑、軽卒、呑気、多弁、移り気（2）、落着なし（3）、無頓着、注意散漫、意志薄弱、逃避的、拒絶的、反抗的、感傷的

弟

従属的（3）、投げやり、飽き易い（2）、気が散りやすい、落着きななし、屈従的、粗雑（2）、粗暴、浅薄、放逸、軽佻、多弁、我儘（4）、甘ったれ、無力、緩慢、利己的（2）、感謝心なし、不平多し、不平煽動家、負けずぎらい、競争心強し、強情、傲慢、不遜、非和解的、補償的傾向強し、反抗的不誠実、陰險、狡猾、ひねくれ（2）、ひがみ、嫉妬、邪推心強し、猜疑的、執拗に復仇しようとする、残酷無情、不機嫌、内省的、自制的、控え目（2）、慎重、寡言、気重、遠慮深い、几帳面、神経質、積極的、高圧的

以上の2群の特徴を比べてみると、兄群には、慎重、自制的で指導的な面と、社会的でのんきな面と、意志薄弱、逃避的といった面がみられ、弟群には、従属的で放逸な面と、我儘で利己的な面と、不平、ひねくれなど好ましくない評語が多く、また一面内省的、控え目といった面が含まれている。

そこで、果して以上のような性格的な差異がEZの対偶者間にみられるとすれば、EZは本来全く同一素質のものとされているので、その差異は生育過程において環境的に形成された差異と考えられるのであり、それは、1つには、家庭における取扱い方の差異、すなわち、双生児でありなが

ら一方を兄または姉とし、他方を弟または妹として遇するわが国のしきたりによるのではないかということ、もう1つには、2人が成長していく間に、体力的な面で、知的能力の面で、あるいは生活経験の多少といった面で、さらには偶発的な事故、疾病などによって生じた両者間の力関係の不均衡、力の差といったものから、両者間の依存関係に生じた模様のあるものが性格形成に影響するのではないかと考えられるのである。そこで、われわれの研究は、この2つの方向にさぐりを入れなければならないわけであるが、前者に関しては、別稿にあるように、大槻氏と天羽が質問紙、面接、家庭訪問、生徒の行動観察などによって、調査資料や事例などを集めてきているので、これと呼応して、同胞間にみられる兄弟的性格差異を測るためのものさしとなるものを作成し、これによって測られた結果を、まず家庭での取扱いと関連させてみて、大槻氏らの想定を実証的に確かめてみようを試みたのが本研究である。ここで選んでみた測定項目は、なお将来検討して、もう少し整ったものさしとしなければならない。

なお、後者の問題は、現在われわれが行っている研究が、それを指向しているのであるが、これと関連するものとして、古畑君の研究がすでに報告されている。^註

I 兄弟的性格差異を求めるための 質問の作成について

1. 質問紙の作成

兄弟的性格差異を求めるための質問項目を作成するについては、まず前記の諏訪・岡田両氏の報告にあるEZの対偶者間の性格の不一致点としてあげられたものを検討してみた。そこで考えられたことは次のようなことであった。まず兄の方の性格的特徴の柱となつているものは、兄的自覚とでもいべきもので、自制的、指導的、責任感、努力等で構成されているが、それは兄的優越といったものに裏づけられる。そして、兄的優越の方が強くなれば無頓着、のんきというようなものが現

れ、総領の甚六的になる。前記の報告で兄的自覚というようなカテゴリーに入れられるような評語がずっと多い。さらに、その兄的自覚が、強くなりすぎたり、周囲からのそうした期待が大きすぎたりすると、兄的自覚は兄的重圧感となり（遠慮がち、はにかみ、気重、決断がおそい等）さらに、重圧が強すぎると兄的フラストレーションといったものが生ずる。（注意散漫、逃避的、拒絶的、反抗的）

これに対して弟の方の性格的特徴の柱となっているものは、弟的従属及びそれに伴う開放感とでもいべきもので、従属的、投げやり、放逸、多弁等いわゆる責任のない気軽な行動がやられる一方、控え目、自制的なといった従属性もみられる。それは兄的優越に対して自己の劣勢を認めることに裏付けられるところもあるが（甘ったれ、無力、緩慢等）その劣勢についての意識は弟的な劣等感となる傾向が多く、ひがみや反抗、自閉傾向となって現われる（利己的、不平、競走心強し、非和解的）それが強くなると、弟的フラストレーションとでもいようなものが生じ、陰険、狡猾、嫉妬、邪推、復仇、残酷といった評語が可なり多い。

以上は、あるいは、いささかちがすぎた考察かもしれないが、ともかく、そんなことをふみ台として、兄的優越、兄的自覚、兄的重圧、兄的フラストレーションという4つのカテゴリーとそれに対応する弟的のもの、およびこれに兄的とも弟的ともいえないような性格、つまりどちらかといえは氣質的とでもいべきものの合計9つのカテゴリーに、それぞれ5つずつの質問項目を作って第一次の試案を作成し、昭和27年度と28年度に入学した双生児について実施してみた。その結果、こうした試みが無駄ではないらしいという期待がもてたので、その実施結果によって若干の取捨を行い、不都合の部分（主として文章の誤解され易いもの）を改訂して作ったのが第二次試案で、その項目は次の通りである。

- 1 どちらがせっかちですか
- 2 どちらがおしゃべりですか
- 3 自分の着るものやもちものについて、よけいに気にするのはどちらですか

註 古畑和孝：一卵性双生児における性格差異と相互依存関係について 教育心理学研究第2巻第2号

- 4 宿題があると気になって楽しく遊べないのはどちらですか
- 5 なにかする時に人の迷惑になるかどうかをよけいに考えるのはどちらですか
- 6 しかられてもあまり気にしないのはどちらですか
- 7 お小使をもらうと早く使ってしまうのはどちらですか
- 8 自分の用事を平気で相手におしつかけたり、たのんだりするのはどちらですか
- 9 人のいうことをなかなかほんきにしないのはどちらに多いですか
- 10 約束の時間におくれても、あまり気にしないのはどちらですか
- 11 なにか気に入らないことがあるとすぐおこったりだまりこんだりするのどちらですか
- 12 よく考えないうちに、仕事を始めて失敗することの多いのはどちらですか
- 13 1つのことをつづけてやるよりも、次々と変わったことをやるのが好きなのはどちらですか
- 14 むりにでも自分の考えをとおそうとするのはどちらですか
- 15 もっと遊んでいたい時でも、やめなければならない時には、すぐやめるのはどちらですか
- 16 なにか気に入らないことがあると、すぐ乱暴するのはどちらが多いですか
- 17 人におだてられると、すぐ調子にのりやすいのはどちらですか
- 18 あまりしゃべらないで人の話を聞いていることが多いのはどちらですか
- 19 欲しいものでも手を出さないで、えんりよするのはどちらですか
- 20 時々ちよっとずるいことをしたり、ごまかしたりするのはどちらですか。
- 21 少しでも困ることがあると人にたよろうとするのはどちらですか
- 22 外にでて遊んだり、さわいだりするのが好きなのはどちらですか
- 23 あれこれ迷ってなかなか決心のつかないことが多いのはどちらですか
- 24 仕事をする時ていねいに失敗のないようにやるのはどちらですか
- 25 先に立って計画し、人をみちびいていくのはどちらがすぐれていますか
- 26 人が困っている時に、すすんで手伝ってあげるのはどちらですか
- 27 自分でできることでも、人にやってもらいたがるのはどちらですか
- 28 人が親切にしてくれたことを喜んでうけとるのはどちらですか
- 29 ちょっとしたことでもすぐ気にするのはどちらですか
- 30 あまり知らない人でも、すぐお友達になれるのはどちらですか
- 31 どちらが負けずぎらいですか
- 32 いつもきちんとしていないと気がすまないのはどちらですか
- 33 悲しいことを、聞いたりみたりすると、すぐ涙をこぼすのはどちらですか
- 34 人の前にでたりするのを、きらうのはどちらですか
- 35 人に親切にしてあげるのは、どちらの方が多いですか、
- 36 どちらがおこりっぽいですか
- 37 めんどろなことはなるべくしないようにするのはどちらですか
- 38 面白いことをいつたり、したりして人を笑わせるのはどちらですか
- 39 人のいうことに反対することが多いのはどちらですか
- 40 はきはきして、ほがらかなのはどちらですか
- 41 たのまれた仕事など、どちらの方がよくしますか
- 42 落着がなくて、いろいろのことに気がちるのはどちらですか
- 43 電車の中などで年寄や小さい子などに席をゆずってあげるのはどちらですか
- 44 しなければならぬと思った仕事を最後までやりとおすのはどちらですか
- 45 ほねおしみをしないで仕事を一生けんめいするのはどちらですか

2. 調査の実施

調査は昭和29年2月から3月の間に、次のような群を対象にして行った。

- (1) 昭和29年度東大附属中学に入学志願した双生児，E Z・男子31組，女子24組，Z Z・男子7組，女子6組。

これらに対して，双生児相互の評定，親の評定及び小学校の担任の先生で両者を知っているものの評定，計4通りの資料を得た。

- (2) 普通の兄弟については，次に記す4つの中学校について，それぞれ1，2年生各4組（但し長野と秋田は合せて8組分ぐらいに当る。）に，まず，ひとりっ子と同性の兄弟のないものを除いて，最も年齢の近い兄弟と自分との性格の差異を評定させ，そのうちから年齢のひらきが3歳以内のものを資料としてとった。それによって得られた資料の数は次の通りである。

(イ) 豊島区高田中学校(山手住宅地)1，2年生，男子76名，女子62名〔調査総数335〕

(ロ) 江東区深川第四中学校(下町工場地帯)1，2年生，男子105名，女子96名〔調査総数384〕

(ハ) 長野県飯山中学校(農村地帯の町)1，2年生，男子70名，女子71名〔調査総数243〕

(ニ) 秋田県小野中学校(農村地帯の町)1，2年生，男子23名，女子27名〔調査総数123〕

そして，これを長男(女)が次男(女)と比べたもの，長男(女)ではない年長の兄(姉)が次の弟(妹)と比べたもの，次男(女)が長男(女)と比べたもの，三男(女)以下の弟(妹)が，そのすぐ上の兄(姉)と比べたものの4つのグループにして整理した。

実施に当って，最も注意をしたことは，この場合の性格評定は普通の意味で，その人の性格的特徴をたずねるのではなく，兄弟の間の差異を比較して，ごくわずかでも，より多くそういう傾向をもっている方に○をつけるのだということの理解を徹底させることであった。そのために次に掲げるような教示をプリントして，それによって検査者に十分に説明してもらうようにした。なお検査者は，東京の場合は天羽と東大教育心理学科の大

学院及び学部学生数名，地方の場合はそれぞれの学校の教官に依頼した。

教示「これから皆さんにいろいろの質問について答を書いてもらいます。それは，いろいろな性質について，あなたとあなたの兄弟を比べてみて，そのちがいを答えてもらうものです。……(略)

次に質問が45ありますが，その1つ1つについて，自分と相手との性質を比べるのです。「まず，どちらがせっかちですか」というのが1番目にありますが，そうきかれると自分も相手もせっかちではないと思う場合もあると思いますが，普通の人に比べれば両方ともそうでなくとも，2人同志を比べれば，どちらかが少しよけいせっかちだと思うことがあるでしょう。そして自分の方が少しせっかちだと思ったら，自分の方をせっかちとして下さい。……(以下略)」

3. 結果の整理

得られた結果の数値註を次のような手続で整理した。なおZZの結果は，数が少ないので整理から省いた。

1. 疑反応の多い項目

回答数の内で疑反応が半数あれば，その項目は1つの傾向を示すものとしては不適當であるので，疑反応が半数あるという仮説を立て，それを5%の危険率で棄却できないものをQとした。

2. 兄弟的性格差異の認められる項目

つぎに疑反応を省き，兄，弟の欄に記入されている得点だけを問題とし，その応答数について，兄の方がそうであるという反応が弟の方がそうであるという反応よりも有意(危険率5%以下)に多くあらわれている項目をE，その反対の傾向があらわれている項目をYとし，有意の差がみとめられない項目をUとした。

3. 疑反応が多いもののうちの兄弟的性格差異のみとめられる項目

疑反応が多いという前提のもとで，しかもそれ

註 はん雑になるので本稿では省略したが，教育心理学研究第2巻第2号に掲載してある。

が兄的傾向を示す項目か、弟的傾向を示す項的かということを見るために、さきにQとしたものについて、その疑反応を除いた応答数について、前項(2)の場合と同様に、兄の方がそうであるという反応が弟の方がそうであるという反応よりも有意(危険率5%以下)に多くあらわれている項目Q_e、その反対の傾向のあらわれている項目をQ_y、さらに有意の差のみとめられないものをQ_uとした。

以上の整理の後、双生児の場合については兄→弟、弟→兄、母→兄弟、教師→兄弟の4者を通じ、また普通の兄弟の場合については、長男→次

男、次男→長男、年長→年少、年少→年長の4者を通じてみた、

1. 4者とも同じ傾向をもち、そのうちにEを3つ以上含むものをⒶ、Yを3つ以上含むものをⒷ
2. 4者とも同じ傾向をもち、そのうちにEを2つもつものをⒶ、Yを2つもつものをⒷ
3. EまたはYを2つ以上もつが、Uを1つ含むものをAまたはB
4. 4者を通じてすべて同じ傾向で、EまたはYを1つ含むものをaまたはbとした。

以上の基準によって、EZの男女別、3地域の

Table 1

| | EZ 男 | EZ 女 | 飯山・小野 男 | 高田中 男 | 深川四中 男 | 飯山・小野 女 | 高田中 女 | 深川四中 女 | 計 |
|----|---------|---------|------------|----------|-----------|------------|----------|-----------|---------------------|
| 1 | | b 2 | | | | | | | b |
| 2 | | | Ⓑ 2 | | Ⓑ 4 | | | Ⓑ 4 | Ⓑ×2, Ⓑ |
| 3 | | | | a 13 | | | | | a |
| 4 | | | | | | | | | |
| 5 | A 13 | | A 11 | A 6 | a 10 | a 14 | | Ⓐ 1 | Ⓐ, A×3, a×2 |
| 6 | B 11 | | | | | | | | B |
| 7 | | | Ⓑ 5 | | a 12 | Ⓑ 6 | | | Ⓑ, Ⓑ, a |
| 8 | | | Ⓐ 8 | | a 15 | | | | Ⓐ, a |
| 9 | | | | | | | | | |
| 10 | | | | | | | B 9 | | B |
| 11 | Ⓑ 4 | | | b 11 | | B 8 | a 9 | A 8 | A, a |
| 12 | | | | | | | | | Ⓑ, B, b |
| 13 | | | | | | | | | |
| 14 | | | A 12 | | Ⓐ 6 | Ⓐ 3 | a 7 | Ⓐ 5 | Ⓐ×3, A, a |
| 15 | | | | | | | | | |
| 16 | B 6 | | Ⓑ 4 | | Ⓑ 1 | B 9 | Ⓑ 1 | Ⓑ 2 | Ⓑ×3, Ⓑ, B×2 |
| 17 | A 7 | | | a 12 | Ⓐ 8 | | | | Ⓐ, A, a |
| 18 | a 14 | | | A 4 | | a 13 | | | a×2 |
| 19 | | | | | | | | | A |
| 20 | | | | | | | | | |
| 21 | B 8 | a 1 | B 15 | b 10 | Ⓑ 3 | Ⓑ 4 | b 5 | Ⓑ 7 | Ⓑ, Ⓑ×2, B×2, b×2, a |
| 22 | Ⓑ 2 | | Ⓑ 1 | Ⓑ 1 | Ⓑ 2 | Ⓑ 2 | b 6 | Ⓑ 3 | Ⓑ×4, Ⓑ×2, b |
| 23 | | | | | | | | | |
| 24 | | | | a 9 | a 13 | | a 8 | | a×3 |
| 25 | A 12 | | Ⓐ 6 | Ⓐ 2 | Ⓐ 14 | | | | Ⓐ, Ⓐ, A, a |
| 26 | | | A 14 | A 3 | | a 12 | | | A×2, a |
| 27 | | | | | Ⓑ 5 | | | b 10 | Ⓑ, b |
| 28 | Ⓑ 1 | | | | | | | | Ⓑ |
| 29 | A 9 | | | | | | | | A |
| 30 | | | | | | | | | |
| 31 | A 10 | | Ⓐ 3 | | Ⓐ 7 | A 10 | A 3 | | A |
| 32 | | | | | | | | | Ⓐ, Ⓐ, A×2 |
| 33 | | | | | | | | | |
| 34 | | | | A 5 | a 11 | A 11 | a 4 | | A×2, a×2 |
| 35 | | | | | | | | | |
| 36 | | | Ⓐ 7 | | | | | | Ⓐ |
| 37 | | | | A 7 | | | | | A |
| 38 | | | B 13 | B 8 | | Ⓑ 7 | | | Ⓑ, B×2 |
| 39 | | | | | | | | | |
| 40 | b 15 | | | | | | | | b |
| 41 | | | Ⓑ 9 | | | | | | Ⓑ×2 |
| 42 | Ⓑ 3 | | | | | | A 2 | Ⓐ 6 | Ⓐ, A |
| 43 | | | A 10 | | A 9 | Ⓐ 5 | | | A×2, A×2 |
| 44 | Ⓐ 5 | | | | | Ⓐ 1 | | | Ⓐ |
| 45 | | | | | | | | | |

中学生の男女別について、45項目中傾向のはっきりあらわれたものを、その順に従って第15位まで序列をつけ、上記の基準の記号と合せ記したものが第1表である。

ただし、aまたはbまでの基準に当るものが、15に到らないものが相当ある。

4. 結果の考察

まず、第1表についてみよう。これは前記のように、かなり大きくくったものなのであるから、大まかな考察になるが、

(1) 兄弟的性格差異は双生児より普通の兄弟間により多く見られる。むろん、その中のある部分は兄弟的性格差異というより、個人的性格差異というべきものも含まれていようが。

(2) 兄弟的性格差異は女子よりも男子にずっと強くみられる。

(3) (1)(2)のことに関連して、第3表をみると、aまたはbまでの基準にあり項目が、EZ男子、飯山・小野中男子、深川四中男子では第15位まで満たされており、高田中男子のみが第13位までであるが女子では飯山・小野中女子が第14位まで、深川四中女子が第10位まで、高田中女子が第9位まで、EZ女子は第2位までに過ぎない。

(4) 兄的性格より弟的性格の方がはっきりと出てきている。第3表でも後の第4の表でも、兄弟的性格差異のけん著に出てくる上位3番目までは、いずれも弟の方である。

(5) 地域的には、兄弟的性格差異は、男女を通じ、飯山・小野中(農村)、深川四中(大都市下町)、高田中(大都市山手)の順に強くあらわれている。

これが家族的封建性と関係があるのかどうかという問題は、なお検討を要する。

(6) 普通の兄弟の場合について、6つの生徒群(3学校・男女)を通じて、一定の傾向を示しているものを、その傾向の強さと、その傾向の各群に現われる頻度とをにらみ合せて10項目えらんでみると(結局11項目になったが)次のものがあげられる。

Table 2

| 序列 | 項目番号 | 差異傾向の強さ | 傾向の現われた群数 | 項目の特徴 |
|----|------|----------------|-----------|---------|
| 1 | 22 | Ⓔ×3, Ⓑ, b | 6 | 快活, 社交的 |
| 2 | 17 | Ⓔ×3, Ⓑ, B | 5 | 調子もの |
| 3 | 21 | Ⓔ, Ⓑ×2, B, b×2 | 6 | 依存的 |
| 4 | 5 | Ⓐ, Ⓐ×2, a×2 | 5 | 控え目 |
| 5 | 32 | Ⓐ, Ⓐ, A×2 | 4 | 几帳面 |
| 6 | 15 | Ⓐ×3, A, a | 5 | 自制的 |
| 7 | 2 | Ⓔ×2, Ⓑ | 3 | 多弁 |
| 8 | 35 | A×2, a×2 | 4 | 親切 |
| 9 | 25 | Ⓐ, Ⓐ, a | 3 | 指導的 |
| 10 | 44 | Ⓐ, A×2 | 3 | 責任感 |
| 11 | 38 | Ⓑ, B×2 | 3 | こっけい |

すなわち、この結果によって、

兄的性格とされたのは、自制的、控え目、几帳面、親切、指導的、責任感が強い、

弟的性格とされたのは、快活、社交的、調子にのりやすい、依存的、多弁、こっけいというような傾向である。

(7) 上記の普通の兄弟にみられた性格的差異を双生児のそれ(男子の場合)と比べてみると大体において一致した傾向がみられ、ことに上位のものは全く一致している。普通の兄弟に現われていて双生児にあらわれてない項目は32, 15, 2, 35, 38などであるが、双生児に現われていて普通の兄弟に出ていないのは、

- 6 (しかられてもあまり気にしない)……弟
- 12 (よく考えないうちに仕事をはじめて失敗することが多い)……弟
- 18 (あまりしゃべらないで人の話をきいているが多い)……兄
- 19 (ほしいものでも手を出さないで遠慮する)……兄
- 28 (人が親切にしてくれたことを喜んでうけとる)……弟
- 29 (ちょっとしたことでもすぐ気にする)……兄
- 31 (負けずぎらい)……兄
- 40 (はきはきしてほがらか)……弟
- 42 (落ち着きがなくて、いろいろのことに気がちる)……弟

などであって、普通の兄弟にみられた性格差異の傾向と相反するものではない。項目の再検討をして整理すれば当然一致するであろう。

(8) EZ女子には兄弟的性格差異がほとんど明らかにはあらわれていない。

(9) 45項目中、兄弟的性格差異をほとんど示さない項目は次のものである。(仮りに第1表中1つも記号のない項目だけをとった。)

- 4 宿題があると気になって楽しく遊べないのはどちらですか
- 9 人のいうことをなかなかほんきにしないのはどちらに多いですか
- 13 1つのことをつづけてやるよりも、次々と変ったことをやるのが好きなのはどちらですか
- 14 むりにでも自分の考えをとおそうとするのはどちらですか
- 16 なにか気にいらないことがあると、すぐ乱暴するのはどちらですか
- 23 あれこれ迷ってなかなか決心のつかないことが多いのはどちらですか
- 30 あまり知らない人とでもすぐお友達になれるのはどちらですか
- 33 悲しいことを、聞いたり見たりすると、すぐ涙をこぼすのはどちらですか
- 34 人の前にでたりするのをきらうのはどちらですか
- 39 人のいうことに反対することが多いのはどちらですか
- 41 たのまれた仕事など、どちらの方がよくしますか

これらの項目をみると、判断の材料になるような場面やことがらが手近にないような質問であること、自分の気もちの方は判るとしても、それに対応する相手の気もちは推察しかねるような質問であること、中学の1・2年生ぐらいのものには少しむずかしいかもしれない質問であること、などが、反省される。

(10) 上記(9)の項目について、お互いに相手の方がそうだとし合ったり、逆にお互いに自分の方がそういう傾向があるのだと考えたりする項目はどれかというのをみると

普通の兄弟の方で3つの学校の男女という6つの群のうち5つの群で同じような傾向をしめたのは質問4、宿題があると気になって楽しく遊べないのはどちらか、で互に自分の方だとしている。

6群中4群が同じ傾向をしめているのは質問33 悲しいことを聞いたり、みたりすると、すぐ涙をこぼすのはどちらですか、でやはり互に自分の方としている。

これに対して双生児では、こうした関係がもっと微細に出てくるのではないかと思われるので、差の検定をしてみると、1%の危険率で有意の差があるものは、男子では

- 4 宿題があると気になって楽しく遊べないのは 自分
 - 6 しかられても余りにしないのは 自分
 - 13 1つことをつづけてやるよりも次々と変ったことをやるのが好きなのは 自分
 - 23 あれこれ迷ってなかなか決定のつかないことが多いのは 自分
 - 31 どちらが負けずぎらいですか 自分
- などで、女子にはない。

次に5%の危険率にさげれば有意の差があるのは、男子では

- 3 自分の着るものや持ちものについて余計気にするのは 自分
- 9 人のいうことをなかなか本気にしないのは 自分
- 33 悲しいことをみたり、きいたりすると、すぐ涙をこぼすのは 自分

女子では13(自分)と16 何か気にいらないことがあるとすぐ乱暴するのはどちらが多いか 自分の2つである。いく分でも悪い方のことは相手方におしやるというような傾向はあまりない。

以上の結果に見られたように、まだこの兄弟的性格差異をつかむための質問項目は検討、改訂を要するものであるが、改善の可能性はあると思われるので、今後改訂をして行きたいと思う。

II 双生児にみられる兄弟的性格差異と家庭での取扱い方

双生児の同胞間にみられた兄弟的性格差異か

ら、示唆を得て構成した質問紙を普通の兄弟に課した結果、兄的、弟的性格の特徴的傾向がみられ、それがまた双生児の場合にもあてはめることができるように思われたので、これをもって双生児にみられる兄弟的性格差異を測るものさしとし、その差異が何に起因するかということの検討として家庭での取扱いとの相関をみようとするのが、ここでの課題である。

そこで、まず、家庭における兄弟的な差別的取扱いの程度をしらべなければならないが、それには次節のような方法による。

また、この研究の被調査者は東京大学附属中学校に昭和28年度入学したもの及び昭和29年度入学志願したもの(当然入学したものを含む)E Z男子37組、女子29組、卵性不明とされたが後にE Zではないかと考えられているもの男子1組女子1組である。

1. 家庭における兄弟的差別的取扱いの調査方法について

直接、親に当って、あなたは2人の子を育てるのに一方を兄として、一方は弟として、区別をつけて扱っていますか、と質問することも、むろん無意味ではないが、それだけでは、実際と相異している場合があるので、できるだけ日常生活で取扱い方の差別が具体的にあらわれるような場面を考え、その取扱い方の差がおのずから兄弟的差別的取扱いを示しているようなものをもとめた。

なお、こうしたしらは、質問紙の他入学時の面接、家庭訪問、子供に対する調査などでも行ったので、そうした項目も入っている。

考えられた調査事項は次のようなものである。

- 1 取扱いにおいて兄弟の差別をつけているかということ直接的に質問する(父、母それぞれに)
- 2 家庭で入浴とか食卓につく位置とかに一定の順序があるか(一般的にその家庭の傾向をみるため)
- 3 何かにつけて兄の方を立てようとするか
- 4 2人が喧嘩をしたとき、兄さんだからとか弟だからといって叱ったり、なだめたりするか

5 幼時の授乳の順

6 幼時の入浴の順

(以下現在)

7 朝起す順

8 食事、おやつを盛る順

9 同時に2人を呼ぶときの順

10 他人に2人を紹介するときの順

11 大切なお使いはどちらにたのむか

12 ちょっとしたお使はどちらにたのむか

13 大切なことを相談するのはどちらか

14 現在頼りになるのはどちらか

15 将来はどちらに期待しているか

(以下本人に)

16 喧嘩のとき兄だから弟だからという叱られ方をするか

17 子供からみて親は兄弟的差別扱いをしていると思うか

18 本人の兄弟意識(S. C. T.等による)

こうした質問にたいする回答の一般的傾向は、

- 1 親に対する直接質問では、兄弟的差別的取扱いはしないというものがはるかに多い。すなわち父の場合は、差をつけない42, 差をつける22, 無記4で、母の場合は差をつけないが46, 差をつけるが22となっている。これに対して子供との面接によって子供からみて親は兄弟の差別をつけて扱っていると思うかという質問(問題17)については、全部の子供にあたることは出来なかったが、兄と弟に分けてみると、兄の方では回答数50のうち差別をつけていないとするもの28, 差別をつけているとするもの20, 疑問2で、弟の方では回答数43のうち、差別をつけていないとするもの24, 差別をつけているとするもの18, 疑問1で、兄弟とも同様の傾向であり、差別をつけていないとする回答の方がやや多いが、親の回答とくらべれば差別をつけられていると思っているものが多い。
- 2 家庭で入浴や食卓につく位置が一定か、という点では一定でないものがはるかに多い。すなわち、不定47, 一定19, 無記2
- 3 何かにつけて兄を立てようとする、については、否定がはるかに多く48, 肯定2, 疑問

- 2, 無記 11 である。
- 4 喧嘩の時の叱り方では, 兄だからというよりない方をしないというのが 50, するというのが 14, 疑問 1, 無記 3 であるが, 子どもの方からいわせると(問題 16)兄の方の回答数 44 のうち肯定 23, 否定 21, 弟の方の回答数 41 のうち, 肯定 19, 否定 22 で, その率において親のいい分とは非常にくいちがっているのは面白い。
- 5 幼時の授乳の順は, 平等にが 36 で, わからないが 20, 無記が 5 で, 兄がさきというのがわずか 7, しかし弟がさきというのは 1 つもない。
- 6 幼時の入浴の順となると, わからないがうんと多くなって 38, 平等にが 15, 無記 3 で, 兄を先にとというのが 12, 弟を先にとというのはない。
- 7 朝起す順は, 同じにが 42, わからないが 12, 無記 1 で, 兄を先にかが 9, 弟を先にかが 4 となっている。弟をさきにか出てきたのは, 朝おこすのはつらいからだろうか。
- 8 食事, おやつを盛る順は, わからないが 35, 平等にが 24, 兄からさきが 7, 弟からさきにが 1 となっている。
- 9 同時に 2 人を呼ぶときの順は, 兄がさきに 34, 弟がさきに 5, わからないが 16, 平等に(かわりがわりさき)が 11, 無記 2 となっている。
- 10 他人を 2 人を紹介する場合にはどうしても兄がさきになると思われるが, やはり兄がさきが 36, 平等にかが 12, わからないが 19, 無記 1 で, 前項とちがって弟がさきというものはない。
- 11 大切なお使いはといっても, その程度によるが, 結果は, 兄にかが 25, 弟にかが 9, 平等にかが 24, わからない 8, 無記 2 である。
- 12 前項に対して, ちょっとしたお使いではどうかという, 弟の方が多くなって 19, 兄は 12, 平等にかが 24, わからないが 11, 無記 2 であるから, 弟の方はやはり軽くみられていることになろうか。
- 13 大切なことを相談する場合は 2 人を一緒に

するのが当然と思われるが, 結果もその通りで平等にかが 38, 兄が 11, 弟が 2, わからないが 14, 無記 3 となっている。

14 現在頼りにしている方はどちらかとの間に対しては, そうした区別をつけなくて平等にみようとしているのが 38, 兄が 11, 弟が 4, わからないが 11, 無記が 4 で, これはそれぞれの実力とも関連しよう。

15 将来はどちらに期待しているかという間に対しては, 同じようにと答えたのが 36, 分らないが 10, 無記が 9 であるが, 兄と弟とでは, 兄の方が 11, 弟の方が 2 となっている。兄の方に期待するという方が多いのは, 実際に頼りになるからか, あるいは兄という資格によるのであろうか。

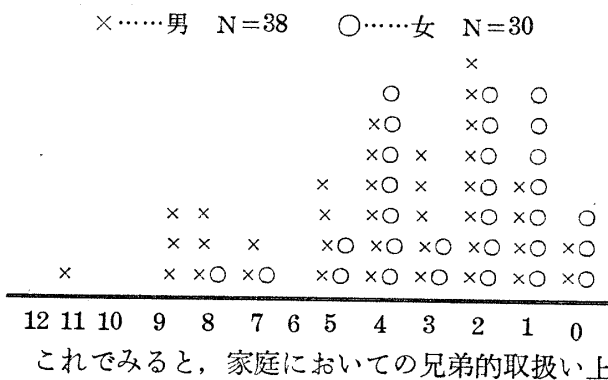
問題 16 は 4, 17 は 1 参照

18 本人の兄弟意識は, 主として, S.C.T. などによってしらべたのであるが, 兄の方で兄弟意識をもっていると思われるもの 47, 然らざるもの 18, 疑問 1, 無記 2, 弟の方では, 意識ありと思われるもの 44, 然らざるもの 21, 疑問 1, 無記 2 で, 肯定否定については兄弟間で大体一致している。

結果は以上のようなものであったが, そのうち家庭の兄弟的取扱いの差異をみるのに役立つと思われるものとして, 前記問題のうち, 1, 3, 4, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 17 の項目をとり, 双生児の各対につき, 取扱い上の兄弟的差別を肯定する項目数の合計をとって, 一応, 差別的取扱いの濃淡をあらわすものとした。

そうした合計点についての分布をみると第 1 図のようになる。

Fig. 1



の差別は男子の方にやや強くみられるようである。

2. 兄弟的性格差異の大きさの決め方

次にE Zの対偶者間にみられる兄弟的性格差異の大きさをみるために、Iの章に報告したように、兄弟的性格差異が顕著にみられた項目10を選び、各対について、本人(2人)と母の判定において、その差異を肯定するものの合計点を差異の大きさの指標とした。すなわち最大の場合は30点となるわけである。

10の項目は次のようなものである。

- 2 どちらがおしゃべりですか (弟)
- 5 なにかする時に人の迷惑になるかどうかをよけいに考えるのはどちらですか (兄)
- 15 もっと遊んでいたい時でも、やめなければならぬ時には、すぐやめるのはどちらですか (兄)

17 人におだてられると、すぐ調子にのりやすいのはどちらですか (弟)

21 少しでも困ることがあると人にたよろうとするのはどちらですか (弟)

22 外にでて遊んだり、さわいだりするのが好きなのはどちらですか (弟)

25 先に立って計画し、人をみちびいていくのはどちらですか (兄)

27 自分でできることでも、人にやってもらいたがるのはどちらですか (弟)

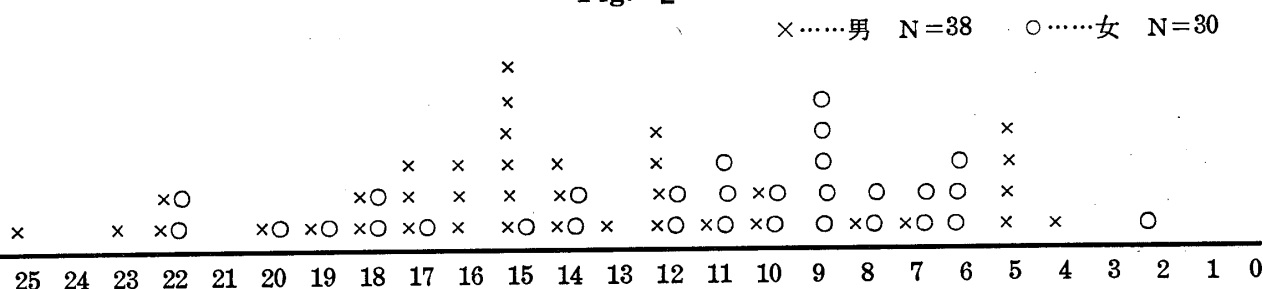
32 いつもきちんとしていないと気がすまないのはどちらですか (兄)

35 人に親切にしてあげるのはどちらの方が多ですか (兄)

その結果の分布は第2図のようになった。

これで見ると、兄弟的性格差異のあらわれは、男女とも広く分布しているが、男子の方が得点の多いものが多い。

Fig. 2



3. 兄弟的性格差異と家庭での取扱い方との関係

そこで、1の得点と2の結果との関係を見ると次のようになる。

Table 3
男子 N=38組

| 兄弟的性格差異 | 家庭での取扱い | | 計 |
|-------------|---------|--------|----|
| | つけている | つけていない | |
| 差異がはっきりしている | 6 | 2 | 8 |
| ややはっきりしている | 12 | 11 | 23 |
| 殆んどみとめられない | 1 | 6 | 7 |
| 計 | 19 | 19 | 38 |

Table 4
女子 N=30組

| 兄弟的性格差異 | 家庭での取扱い | | 計 |
|-------------|---------|--------|----|
| | つけている | つけていない | |
| 差異がはっきりしている | 8 | 2 | 10 |
| ややはっきりしている | 2 | 10 | 12 |
| 殆んどみとめられない | 3 | 5 | 8 |
| 計 | 13 | 17 | 30 |

Table 3, 4, の各欄の頻数は取扱いに關しては Fig. 1 に於てきりのよい点数のところなるべく等分に近いように2分し, 兄弟的性格差異に關しては Fig. 2 の頻数配分が男女共直觀的にほぼ3つの山にわかれているので, それに従って3分した。これに關して, 取扱いと性格差異との間の無相関を帰無仮説とし, 無相関檢定法(佐藤良一郎著「無相関檢定法」昭22)によつて, それを棄却した場合の危険率を計算すると, Table 3, 4, 共に1%以下であつた。従つて家庭で兄弟的な差をつけて取扱っている度合と, EZ 対偶者間に兄弟的性格差異のみとめられる度合との間には, 危険率1%以下で正の相関があるといふことができる。

もちろん, EZ の対偶者間に見られる性格的差異のすべてを家庭における取扱い方の差に歸することは出来ない。家庭ではできるだけ取扱い上に差をつけないようにしても, 学校や社会で強いて差をつけるような扱い方をし, 両者に特殊な兄弟意識をもたせるようにしてしまふ場合もあろう。家庭での取扱われ方と家庭外での取扱われ方のいずれが大きな影響をもつかといふことは, 個々の場合について考えなければならぬことであるが, とにかく, この研究結果によつて, 家庭での取扱い方における兄弟的差別もまた, 性格形成に參與しているといふことがいえたわけである。

む す び

なおまだ荒げづりのものであるが, 1卵性双生児の対偶者間に性格的差異がみられること, しかもその差異は一般の兄弟間からも抽出されるような兄弟的性格差異をしめすものであることが, いろいろと思ふ。

そして, その兄弟的性格差異と, 家庭における兄弟的差別的取扱いとの關係をもとめたところ, 高い相関があることが示された。

これは, いろいろな意味でパーソナリティーの形成という問題を示唆するものがあると思ふ。むしろ, パーソナリティーの形成には, 家庭における取扱い方だけが影響しているのではないが, 生育環境の一要因としての家庭における取扱いが働いているといふことはいろいろ。

いま, われわれは, 別の觀點から, すなわち, 双生児の対偶者間の相互關係という面から, パーソナリティーの形成に働きかけるものを求めているが, 性格研究の分野においても, 双生児法は, きわめて有効な研究法であると思ふ。

本稿の資料の蒐集には東大教育学部附属学校教官諸氏の御協力を, また資料の統計的処理については, われわれの研究室の東洋君にお力添えをいただいた。

ここに謝意を表する。